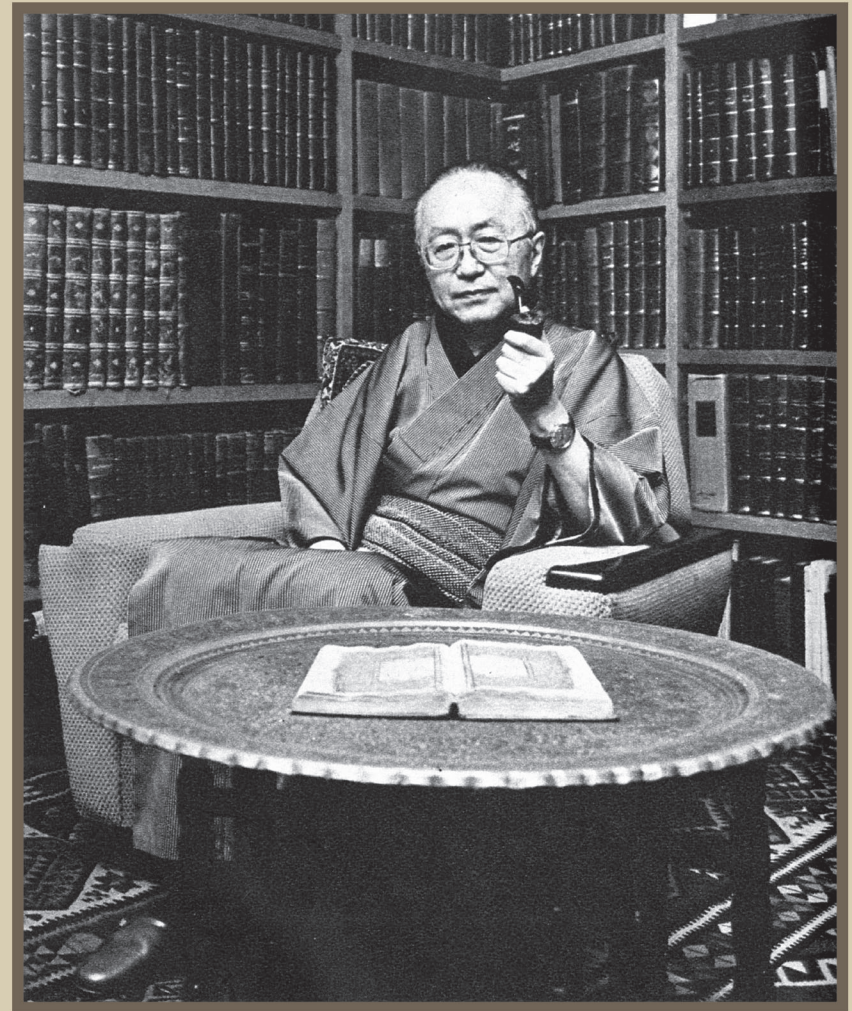


堂々、完結！ 井筒俊彦全集

全12巻・別巻



イランより帰国した1979年。書斎にて。渡部雄吉撮影

東洋と西洋の叡知を極めた世界的碩学の
全貌がついに明かされる。

慶應義塾大学出版会

完結にあたって

二〇一三年は井筒俊彦の歿後二十年にあたり、二〇一四年には生誕百年を迎えました。弊社ではこの節目となる二〇一三年から『井筒俊彦全集』（全十二巻・別巻）の刊行を開始し、このたび完結の運びとなりました。

井筒俊彦は天才的な言語能力を駆使し、詩・文学からギリシア哲学、イスラーム哲学、中世ユダヤ哲学、インド哲学、老荘思想、仏教、禅に至るまで、人類の叡智を時空を超えた有機的統一体として読み解き、東洋哲学と西洋哲学の「対話」を目指しました。

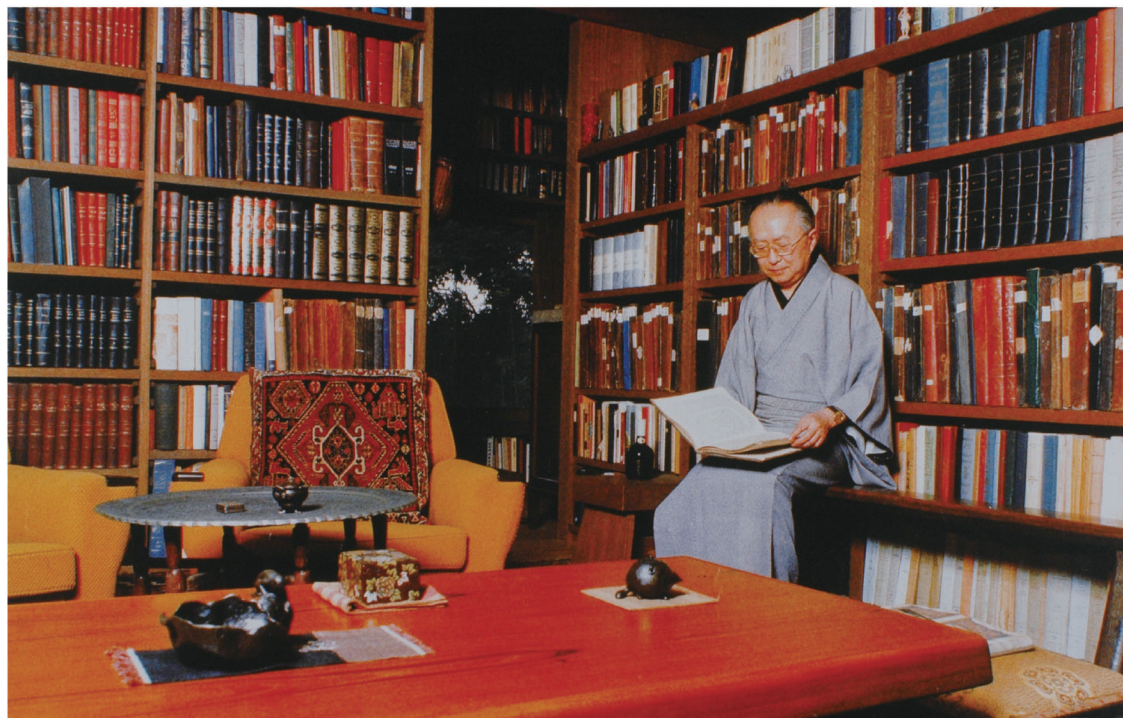
本全集は、井筒俊彦が日本語で執筆したすべての著作を、発表年順に収録することで、広大無辺な井筒哲学の全体像を明かし、思索の原点から構築への道程を辿るものです。井筒俊彦の言語哲学に根差す「対話」の思想は、二十一世紀に生きる我々にとって重要な視座を与えてくれる遺産であり、広く共有されることを願っております。

二〇一六年八月

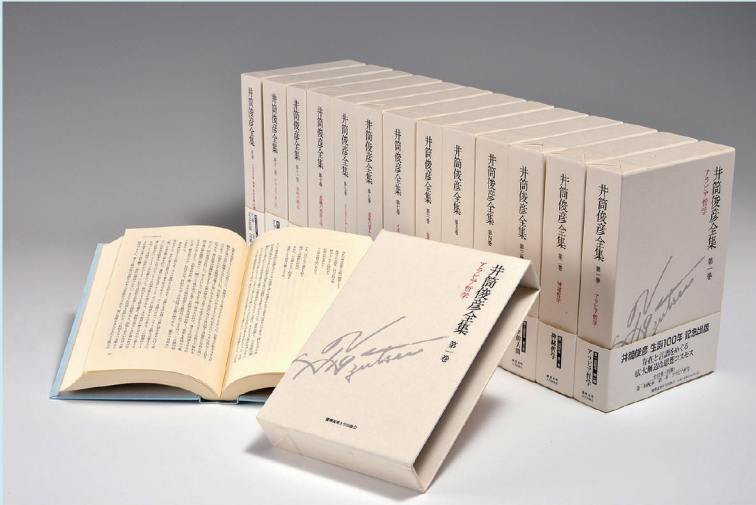
編集顧問
鈴木孝夫
編集委員
岩見 隆
澤井義次
編集担当
木下雄介

鳥居泰彦
鎌田 繁
野元 晋
坂上 弘

松原秀一
若松英輔
(五十音順)



1980年、鎌倉の書斎にて



著者の蔵書サイン

装丁：中島かほる
仕様：四六判上製・函入・ビニールカバー付
頁数：各巻492～720頁

井筒俊彦の生涯

1914年5月4日、東京市四谷区に生まれる。
西脇順三郎のシュルレアリスム詩論に触発された井筒俊彦は、慶應義塾大学で西脇に師事し言語学者として出発、「言語学概論」をはじめとするその新鮮な講義は、大教室から人が溢れるほど人気を博した。その他、「ギリシア神秘思想史」、「ロシア文学」などの講義を行なう。

1941年、処女著作『アラビア思想史』、49年、『神秘哲学』など、初期代表作を発表。

1956年に発表した英文著作『Language and Magic』が、ロシア・フォルマリストのローマン・ヤコブソンの目にとまり、彼の推薦を得てロックフェラー財団フェローとして、レバノン、エジプト、シリア、ドイツ、パリなど中近東・欧米での研究生活に入る(1959-61年)。

これを機に、日本から世界へと活躍の場を広げ、マギル大学やイラン王立哲学アカデミーにおいてイスラーム学研究や執筆活動に従事した。1961年マギル大学客員教授、69年同大学イスラーム学研究所テヘラン支部教授、75年イラン王立哲学アカデミー教授。イスラーム思想や東洋哲学に関する英文著作・翻訳を多数刊行する。

1967年、20世紀の心理学、宗教学の世界を代表するカール・グスタフ・ユングやミルチャ・エリアーデらの参加する「エラノス会議」(1933年スイス・アスコナで創始)に招聘された。人間の精神性を探求することを理念とした「エラノス会議」は、毎年夏、100人ほどの聴衆を前に、十人前後の宗教学者、哲学者、科学者、芸術家らが、それぞれの専門領域における新しい考えを発表するという学際的な精神運動で、井筒は鈴木大拙に次ぐ二人目の日本人正式レクチャーとして、以後15年にわたりほぼ毎年、老荘思想や禅、儒教など東洋哲学についての講演を行なった。

1979年2月、イラン革命激化のためテヘランより日本に帰国。長年の研究成果による独自の哲学を、日本語で著述することを決意、『意識と本質』(1980-82年)、『意味の深みへ』(1985年)、『コスモスとアンチコスモス』(1989年)、『超越のことば』(1991年)、絶筆となった『意識の形而上学』(1993年)などの著作を発表した。

1982年日本学士院会員。同年、毎日出版文化賞、翌83年、朝日賞受賞。1993年1月鎌倉の自宅にて逝去(78歳)。鎌倉市円覚寺に眠る。



エラノス会議の円卓 (table ronde)
世界中から集まった第一級の学者たちが、マッジョーレ湖ほとりの円卓を囲んで語り合った。

◎お申込み方法

お申込書にご記入の上、お近くの書店にお持ちください。
お近くに書店がない場合には、下記の弊社営業部に直接お申込みください。
また、弊社ホームページ上でもお申込みいただけます。 <http://www.keio-up.co.jp/>

お申込書	書店名 【この欄は書店が使用します。】	井筒俊彦全集	タイトル	ISBN	本体価格
	第1巻 アラビア哲学		978-4-7664-2071-5	6,000円 []冊	
	第2巻 神秘哲学		978-4-7664-2072-2	6,800円 []冊	
	第3巻 ロシア的人間		978-4-7664-2073-9	6,800円 []冊	
	第4巻 イスラーム思想史		978-4-7664-2074-6	6,800円 []冊	
	第5巻 存在顕現の形而上学		978-4-7664-2075-3	6,800円 []冊	
	第6巻 意識と本質		978-4-7664-2076-0	6,000円 []冊	
	第7巻 イスラーム文化		978-4-7664-2077-7	7,800円 []冊	
	第8巻 意味の深みへ		978-4-7664-2078-4	6,000円 []冊	
	第9巻 コスモスとアンチコスモス		978-4-7664-2079-1	7,000円 []冊	
第10巻 意識の形而上学	978-4-7664-2080-7	7,800円 []冊			
第11巻 意味の構造	978-4-7664-2081-4	5,800円 []冊			
第12巻 アラビア語入門	978-4-7664-2082-1	7,800円 []冊			
別巻	978-4-7664-2083-8	7,200円 []冊			
全12巻・別巻			本体価格合計	88,600円 []セット	
お名前					
ご住所					
お電話					
E-mailアドレス					

お申込書にご記入いただきました個人情報は、ご注文の書籍の発送およびご連絡のみに使用します。

◎お取扱いは

慶應義塾大学出版会

〒108-8346 東京都港区三田2-19-30
TEL 03-3451-3584 / FAX 03-3451-3122

<http://www.keio-up.co.jp/>

「井筒俊彦全集特設サイト」
<http://www.keio-up.co.jp/kup/izutsu/cw.html>

井筒俊彦全集 全十二巻・別巻 目次構成

※緑色の文字＝「著作集」未収録作品
青色の文字＝新資料(単行本未収録)

第一巻 アラビア哲学 540頁 本体価格6000円

井筒哲学の原点がまとめられた第一巻。自作の詩からはじまり、言語論、初期代表作「アラビヤ哲学」など三十一篇を収録。
ひろそひあはつおん philosophia hakon
松原秀治氏訳 ドーザ「言語地理学」に就いて
「ハイドン」編「回教の現在と将来」
ガブリエリ「現代アラビア文学の主流」
ザマフシャリーの倫理観(一)「黄金の頭飾の研究」
ザマフシャリーの倫理観(二)「黄金の頭飾の研究」
アラビヤ文化の性格「アラビヤ人の眼」
「アラビヤ思想史」自序
イブヌスカーワヒビの社会的倫理説「アラビヤ思想史」(第一部第四章)
「東印度に於ける回教法制(概説)」
回教神秘主義哲学者 イブヌルアラビーの存在論
トルコ語
アラビア語
ヒンドスターニー語
タミル語
回教に於ける啓示と理性
マホメット
イスラム思想史
アラビア科学・技術
ロシアの内的生活―十九世紀文学の精神的展望
「アラビヤ哲学―回教哲学」
解題 木下雄介／索引

第二巻 神秘哲学 660頁 本体価格6800円

初期代表作の「神秘哲学」を収録。その他「詩と哲学」の不可分性を正面から論じたエッセイなど、井筒の神秘主義観が表れた著作群を収録。
詩と宗教的実存―クロオデル論
「神秘哲学」(底本は一九七八年新版)
「アラビヤ語入門」序文
神秘主義のエロスの形態―聖ベルナル論
解題 木下雄介／索引
◆月報◆
ディオニュソスの人間の肖像
安藤礼二「多摩美術大学准教授、文芸評論家」
向上道と向下道
高橋巖「美学研究」
プラトンの神秘道―井筒の「東洋」発見
納富信留「古代ギリシア哲学」
◆第三巻◆
第三巻 ロシアの人間 612頁 本体価格6800円
初期代表作の「露西亜文学」「ロシアの人間」を収録。その他、思想形成期に特徴的な「詩と哲学」の関係を論じたエッセイや、「ロシア」への若きハトスの溢れた著作群を収録。
「露西亜文学」
「ホメーロ」
トルストイに於ける意識の矛盾性について
「ロシアの人間」
「ロシア」解説
記号活動としての言語
コーランと千夜一夜物語
レバノンから ベイルートにて
カナタモントリオールにて
ポストンにて
「コーラン」改訳の序
改訳「コーラン」後記
哲学の意味論
コーラン翻訳後日談
東西文化の交流
回教哲学所感―コルバン著「イスラム哲学史」邦訳出版の機会に
禅における言語の意味の問題
「イスラム思想史―神学・神秘主義・哲学」
解題 木下雄介／索引
◆月報◆
豪華な学者夫妻 瀬戸内寂聴(作家・僧侶)
井筒イスラム学と私
小杉泰「京都大学大学院・ジヤ・アフリカ地域研究研究科教授、イスラム学」
「イスラム思想史」の頃
合庭惇(元編集者、国際日本文化研究センター名誉教授)

第四巻 イスラム思想史 632頁 本体価格6800円

代表作「イスラム思想史」に加え、単行本未収録の「研究社世界文学辞典」執筆項目や、外国から日本へ宛てた便りなどユニークな著作を収録。
「研究社世界文学辞典」執筆項目「アラビヤ文学」「ルコ文学(ペルシア文学)」
「愛のロゴスとバトス」訳者序
マホメットとコーラン
「コーラン」はしがき
「コーラン」解説
記号活動としての言語
コーランと千夜一夜物語
レバノンから ベイルートにて
カナタモントリオールにて
ポストンにて
「コーラン」改訳の序
改訳「コーラン」後記
哲学の意味論
コーラン翻訳後日談
東西文化の交流
回教哲学所感―コルバン著「イスラム哲学史」邦訳出版の機会に
禅における言語の意味の問題
「イスラム思想史―神学・神秘主義・哲学」
解題 木下雄介／索引
◆月報◆
豪華な学者夫妻 瀬戸内寂聴(作家・僧侶)
井筒イスラム学と私
小杉泰「京都大学大学院・ジヤ・アフリカ地域研究研究科教授、イスラム学」
「イスラム思想史」の頃
合庭惇(元編集者、国際日本文化研究センター名誉教授)

第五巻 存在・顕現の形而上学 632頁 本体価格6800円

イランから帰国し、長年に亘る海外での思索が結実する、一九七八年から八〇年の著作群を収録。今道友信らとの対談「イスラム哲学」、禅仏教論、師や朋友について語る貴重なエッセイまで、多彩な内容を網羅。
「イスラム古典叢書」監修者のことは
東西の哲学・今道友信との対談
モツラー・サドラー「存在認識の道―存在と本質について」解説
「ルーミ」語録「解説」 新版発刊にこして
「神秘哲学」新版前書き
対話と非対話―禅問答についての二考察
追憶
イスラム世界とは何か「岩村忍との対談」
「イスラム生涯」はしがき
イスラムとは何か
本質直観―イスラム哲学断章
国際会議学際会議
道程
慶應国際シンポジウム所感
武者修業
正師を求めて
「イスラム哲学の原像」
師と朋友
解題 木下雄介／索引
◆月報◆
翻訳者としての井筒俊彦 池澤夏樹(作家)
西洋中世哲学から見た井筒俊彦
山内志朗「慶應義塾大学文学部教授、スコラ倫理学」「イスラム思想史」出版後のこと
合庭惇(元編集者、国際日本文化研究センター名誉教授)

第六巻 意識と本質 516頁 本体価格6000円

海外での二〇年に亘る活動を経て「東洋思想」の新たな地平を切り拓くとした主旨「意識と本質」を収録。著作集、単行本未収録の「転変を重ねて」では井筒の意外な一面が語られる。
「意識と本質―東洋哲学の共時的構造化のために」
神秘主義の根本構造(上田閑照・大沼弘との鼎談)
イスラムの「二つの顔」―時局的関心の次元を超えイスラムという宗教・文化の精神を把握するための方途を説く
転変を重ねて
第一級の国際人
「イスラム神秘主義におけるベルソナ理念」序詞
「みすず」読書アンケート(一九八〇年への回答)
イスラム文明の現代的意義(伊東俊太郎との対談)
解題 木下雄介／索引
◆月報◆
宗教と文芸批評 三浦雅士(文芸評論家)
井筒夫人・豊子さんの友人として
中根千枝「東京大学名誉教授、日本学(院)会員」
テヘランから鎌倉へ
合庭惇(元編集者、国際日本文化研究センター名誉教授)

第七巻 イスラム文化 720頁 本体価格7800円

一九八一年から八三年、思索の成熟期に書かれた著作群を収録。単行本未収録の「イラン・イスラムの黙示録」は、イランでの生活やホメイニ革命について語る貴重な作品。
イスラム文化―その根柢にあるもの
「みすず」読書アンケート(一九八一年への回答)
イラン・イスラムの黙示録
追憶―西脇順三郎に学ぶ
デリタ現象
幻影の人―池田彌三郎を憶う
行脚漂泊の師「ムーサー」
「読む」と「書く」
「コーランを読む」
解題 木下雄介／「コーランを読む」小見出し一覧／索引
◆月報◆
井筒俊彦を回想して ヘルマン・ランドルト「ギル大学名誉教授、イスラエル派研究所上級研究員」
野元晋司「慶應義塾大学言語文化研究所教授」
経験と哲学、イメージとは―井筒俊彦からの学び
河合俊雄「京都大学」の未来研究センター教授
読むということ 湯川豊(エッセイスト)

第八巻 意味の深みへ 576頁 本体価格6000円

一九八三年から八五年の最盛期に書かれた著作群を収録。単行本・著作集未収録の「中央公論」と私ほか、現代思想から東洋哲学を読み解こうとする野心的な内容。
ユング心理学と東洋思想(「ヒルマン、河合隼雄との鼎談」)
西脇先生と言語学と私
デリタのなかのユタヤ人
「みすず」読書アンケート(一九八三年への回答)
語学開眼
シリア派イスラム―シリアの殉教者意識の由来とその演劇性
文化と言語アラヤ識―異文化間対話の可能性をめぐって
「書く」―デリタのエクリチュール論に因んで
単数・複数意識
スーフィズムと言語哲学
スーフィズムとスピリティズム(日ランドルトとの対談)
渾沌―無と有のあいだ
文学と思想の深層(遠藤周作との対談)
「中央公論」と私
意味・分節理論と空海―真言密教の言語哲学の可能性を探る
言語哲学としての真言
人間存在の現代的状況と東洋哲学
「意味の深みへ」あとがき
解題 木下雄介／索引
◆月報◆
玄侑宗久(作家、臨済宗僧侶)
井筒君
存在論的流動―井筒哲学と私 野村喜和夫(詩人、多様性と二元性の間
島蘭進「上智大学教授、宗教学・死生学」

第九巻 コスモスとアンチコスモス 492頁 本体価格7000円

一九八五年から八九年に書かれた著作群。単行本・著作集未収録の「西田幾多郎全集」推薦文などを収録。貴重収録音源CD「コスモスとアンティ・コスモス」―東洋哲学の立場から。附記。
「西谷啓治著作集」推薦
「開かれた精神」の思想家
気づく―詩と哲学の起点
「みすず」読書アンケート(一九八六年への回答)
コスモスとアンチコスモス―東洋哲学の立場から風景
「図書」(私の三冊)への回答
「いまなぜ」西田哲学か
下村先生の「主著」
禅的意識のフィールド構造
「ロシアの人間」後記
「マホメット」学術文庫「版まえがき」
「コスモスとアンチコスモス」後記
解題 木下雄介／索引
◆月報◆
吉村萬宅(小説家)
井筒俊彦先生ご夫妻との思い出
澤井義次「天理大学教授、宗教学」
文人哲学者 井筒俊彦
山本芳久「東京大学准教授、西洋中世哲学・イラー哲学」



1979年夏、エラノス会議にて

第十巻 意識の形而上学 704頁 本体価格7800円

一九八七年から九三年の最晩年の著作群。遺著となった連身の作「意識の形而上学」や、司馬遼太郎との対談、単行本未収録の読書アンケートなどを収録。
編纂の立場から
中世ユダヤ哲学史における啓示と理性
言語現象としての「啓示」
アヴィセナガ・ザザリール・アヴエロス「崩落」論争―「哲学の崩落」(Destructio philosophorum)と「崩落の崩落」(Destructio destructionis)をめぐるテクスト「読み」の時代
思想と芸術(安岡章太郎との対談)
「LATITAM ASI」汝はそれなり―「バーヤード・バスターミ」におけるベルソナ転換の思想
マヤー的世界認識―不二元論的ワエダーンタの思想構造をめぐって
アンケート「ギリシア悲劇と私への回答」
「エラヌス叢書」の発刊に際して―監修者のことは
イスラム生涯「文庫版後記」
意味論序説「民話の思想」の解説をかねて
「超越のことは」あとがき
「著作集」刊行にあたって
アンケート「20世紀日本の読書遍歴」への回答
東洋哲学 覚書 その一 意識の形而上学―「大乗起信論」の哲学
「意識の形而上学」あとがきに代えて 井筒豊子
二十世紀末の闇と光(司馬遼太郎との対談)
解題 木下雄介／索引
◆月報◆
「垂幕のうしろから」学んだ井筒俊彦
鎌田繁「東京大学東洋文化研究所教授、イスラム思想」
Seig with Different Tree―井筒俊彦と「古い」
鏡リュウジ「(心理)占星術研究家、翻訳家」
モハゲグ博士を通じて見た井筒先生
駒野欽一「元イラン大使」

第十一巻 意味の構造 452頁 本体価格5800円

必読の「コーラン論」井筒俊彦の代表的英文著作The Structure of the Ethical Terms in the Koran (1959)を元にした一九九二年の著作。
「意味の構造―コーランにおける宗教道德概念の分析」
旧版の解説 牧野信也
井筒俊彦著「集」の解説
解題 木下雄介／人名事項索引／コーラン引用索引／原語索引
◆月報◆
井筒俊彦の思い出
サイイド・ホセイナスル(ニューヨーク大学学長教授)／澤井真訳「(日本)学術振興会特別研究員P.D、東京大学東洋文化研究所」
井筒俊彦の奇跡の数年 宇野重規「東京大学教授、西洋政治思想史」
井筒俊彦先生と父・松本正夫 島多代「(国際児童図書館評議会会員、絵本資料家)「ミュー・イマジョナル」(主宰)」

第十二巻 アラビア語入門 624頁 本体価格7800円

井筒俊彦のもう一つの真骨頂である初期言語論集(一九三九―四五)。井筒哲学の根柢にある「言語へのまなざし」が明らかに。代表作「アラビヤ語入門」ほか、アッカド語や「ヒンドスターニー語」などを収録。
「アラビヤ語入門」
新刊紹介「言語研究」(第一号)
新刊紹介「言語研究」(第二号)
最近のアラビヤ語学
アッカド語の「ヨ」構文について
新刊紹介「言語研究」(第四号)
新刊紹介「言語研究」(第六号)
ヒンドスターニー語
アラビヤ語
解題 木下雄介／「アラビヤ語入門」索引／索引
◆月報◆
井筒俊彦先生のこと
上田閑照「日本学士院会員、京都大学名誉教授、宗教学」
井筒哲学への対応、斎藤慶典「慶應義塾大学教授、哲学」
言語的現象としての宗教 池内忠「東京大学准教授、イスラム政治思想」

別巻 464頁 本体価格7200円

未発表原稿・補遺・著作目録・年譜・総索引
新発見原稿として井筒俊彦訳イブン・アラビー「叡智の台座」(第一章)、「東洋哲学の行方を考える」を、ふくむ十八篇を収録。高野山大学での一九八四年の講演音源CD「言語哲学としての真言」附記。

未発表原稿

イブン・アラビー「叡智の台座」(第一章) 井筒俊彦訳

東洋哲学の行方を考える

補遺

マイモニデスの予言論―ユダヤ哲学の一断面

「コーラン」(世界大百科事典「第十一巻」)

「解説世界文学史年表」執筆項目

異質的な「東洋」―コーランの口語完訳を終って

レバノンの人と風土―ベイルートにて

人文書院版「神秘哲学 第一部」覚書

人文書院版「神秘哲学 第二部」序文

「シリーズ日本人―井筒俊彦」

東洋哲学の今後―イスラムと日本

「みすず」読書アンケート(一九八七年への回答)

コスモスとアンティコスモス―東洋哲学の立場から

「DoBook」読書アンケート(一九九〇年への回答)

「DoBook」読書アンケート(一九九二年への回答)

アラビア古詩三篇 井筒俊彦訳(佐藤春夫「愛の世界」より)

アイズリル・ザラート・ハマダーニの思想における神秘主義と言語の多義的用法の問題

黒田壽郎訳

井筒俊彦君との交際 池田弘三郎「手紙のたのしみ」より

解題 木下雄介

著作目録 若松英輔

全巻構成一覧

総目次索引

総索引(人名著作名)

コーラン引用索引

別巻索引

附録 井筒俊彦講演音声CD「言語哲学としての真言」(論文は第八巻収録)

◆月報◆

ことばに尽くせぬ思い出

ナダール・アルダラン(ハーバード大学大学院デザイン学科、建築家)／足立康訳(元青山学院短期大学教授)

フィロソフィカル・セマンティクスの射程

黒田壽郎「(国際)大学名誉教授、イスラム文化社会論」

井筒俊彦と丸山圭三郎―出会い、交錯した二人は、どこに向かったか

互盛史「(言語論・思想史)」

本全集の特色

- 井筒俊彦の英文著作、翻訳を除くすべての日本語著作を、執筆・発表年順に収録した初の本格的全集。
- 中央公論社『井筒俊彦著作集』(全11巻、別巻1、1991年-1993年)やこれまで刊行された単行本には未収録の貴重な著作(辞典執筆項目や読書アンケート、珠玉のエッセイ「風景」「いま、なぜ、西田哲学か」など)を多数、収録。

- 編纂の過程で発見された、未発表原稿(イブン・アラビー「叡智の台座」第一章の翻訳、「東洋哲学の行方を考える」)を別巻に収録。
- 特別附録として、講演音源CD「コスモスとアンティ・コスモス」を第9巻、「言語哲学としての真言」を別巻に収録、これまで知ることのできなかった井筒俊彦の講演活動の様子を窺うことができる。
- これまでの研究成果をもとにした著作目録、井筒俊彦年譜(若松英輔執筆)、総索引を別巻に収録。

- 底本は、原則として著者生前の最終版を採用、さらに複数の版本を照合して校閲を行い、精確さを極めた。
- 各著作の書誌情報、執筆背景、改訂内容などをまとめる解題と緻密な索引を各巻に附す。
- 井筒俊彦の作品、人柄を語る国内外の多彩な執筆陣による月報を附す。